

待降節第3主日 (ルカ 3:10-18)

わたしよりもすぐれた方が来られる



「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。」(3・16) 洗礼者ヨハネは、自分のあとに来られる方が確かに優れていることを理解しています。

私たちはしかし、ただいまの朗読を読み終わっても、あとから来られるイエス様のどこが洗礼者ヨハネより優れているか分かっていません。おいでになる方がすべての預言者より優れている方であることを確認して、待降節の準備を前に進めましょう。

洗礼者ヨハネは、いろいろな境遇にある人々が「わたしたちはどうすればよいのですか」と求める声に、ごく普通の答えを返しました。尋ねた人々が拍子抜けするような勧めでした。「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」(3・11)

徴税人や兵士にも、ごく当たり前の勧めを与えました。徴税人は集めた金をローマに納め、「罪人」と思われていましたし、兵士は命令が下ればどんな命令にも従う冷酷な人です。よほど厳しく追及されるのかと思っていたら、置かれた生活の中で実行できる勧めでした。

イエスも、特別な人でなければできないような勧めをしたりはしませんでした。「求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。」(マタイ 5・42) では何が、洗礼者ヨハネより優れていて、イエス様を待つべきなのでしょう。

洗礼者ヨハネよりイエスが優れている点。それは、イエスの働きが、常に聖霊と共にあったという点です。今週の朗読でも、洗礼者ヨハネはイエスのことを次のように証言しています。「その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」(3・16)

宣教活動の中でも聖霊が共にいてくださることを示しています。「言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくださる。」(ルカ 12・12) これは弟子たちに語っただけでなく、イエスご自身の働きの中でも聖霊が共にいてくださったということです。

どんなに難しいことを求めたとしても、イエスは聖霊によって心の中をすべてご存知の上で語りかけます。洗礼者ヨハネが「わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない」(3・16) と言ったのも当然のことです。

一人の金持ちが天の国に入るためにどうすれば良いかを尋ねたときがそうでした。「イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。『あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。』」(マルコ 10・21) 金持ちは掟を隅々まで守ってきたので、自信满满だったのですが、心の中を見透かされました。

次の箇所も、イエスが聖霊と共におられることを証明しています。

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

「イエスは、彼らが心の中で考えていることを、御自分の霊の力ですぐに知って言われた。「なぜ、そんな考えを心に抱くのか。」（マルコ 2・8）洗礼者ヨハネは、霊の力で見ることはできませんでしたが、イエスはご自分の霊の力で私たちの心の中を見抜きます。

これからお迎えする幼子イエスは、私たちの心の中にもとどまってくださいます。私たちはふさわしい準備が必要です。私たちの心を、霊の力ですべて見渡しておられる方のお部屋として提供できる準備ができているでしょうか。洗礼者ヨハネの勧めを参考にして、私たちの準備を急ぎましょう。

待降節第 4 主日(ルカ 1:39-45)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。